

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 18日

1. 職名・氏名 教授・森川 峰幸

2. 学位 学位\_\_\_\_\_、専門分野 \_\_\_\_\_、授与機関\_\_\_\_\_、授与年 \_\_\_\_\_

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境・文化概論（通年4単位）1年生	
②内容・ねらい 食えることと農業は本来密接につながっており（食農）、それを取り巻く環境・文化はこの食農と切り離せない存在である。それが本来の「農」であり、「農」とは総合知であることを実務経験者から学び、自分の中で「農」のとらえ方を学習する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎に感じたことの発表と意見交換の時間を設け、学生の理解度を高めた。 ・学期末ごとに面談にて理解程度の把握と理解の促進を行うとともに、グループディスカッションを通して、自分の考えを深める力と表現する力を高めた。学年末には「農」を取り巻くものについて考える意見論文を提出させることで、1年間学んだ総合知としての「農」の考えを明確にさせた。 ・外部講師を招いての授業では、講師との事前打ち合わせを密にして、必要な資料を事前配布するなど、より講義内容の理解が深まるようにした。	【ゲストスピーカー 17人】 【フィールドワーク 0件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境実習Ⅰ（通年2単位）1年生	
②内容・ねらい 福井県内全域を学びの場として、実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎に、一連の作業工程のすべてを体験できるよう、班編成ならびにタイムスケジュールを考慮した。また、日誌作成により、体験工程の理解度を深めた。 ・外部講師を招いての授業では、講師との事前打ち合わせを密にして、必要な資料を事前配布するなど、より講義内容の理解が深まるようにした。 ・学期末に「農」に学び、自らがどう生きたいかについて、グループディスカッションを行い、実習内容について、理解を深めた。	【ゲストスピーカー 14人】 【フィールドワーク 20件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

・食農環境演習Ⅰ（通年４単位）１年生

②内容・ねらい

食農環境実習Ⅰで体験したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

・演習毎にレポートを提出させるとともに、学期末には面談による指導を行い、理解程度の把握と理解の促進を行った。

・学期末に「農」に学び、自らがどう生きたいかについて、グループディスカッションを行い、演習内容について、理解を深めた。

【ゲストスピーカー １４人】

【フィールドワーク ２０件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

・総合農学（通年８単位）１年生

② 内容・ねらい

キャンパス内の圃場で、年間を通じて実際に農作物を栽培し、収穫、加工、消費までを体験する中で、栽培技術、農作業機械操作技術、加工・調理技術、簿記技術を身に付けるとともに、農業と気象、土壌環境、他の生物との関係性を観察、理解し、実験計画法、土壌分析法、雑草・病害虫被害調査方法などを学習する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

・授業毎に作業日誌を提出させ、実習内容の進捗を把握することで、学生の学習補助を行った。

・必要に応じて、学生自身に作業マニュアルを作成させ、作業工程をまとめさせることにより、理解度を深めた。

・学年末には MyFarm 発表会を実施するとともに、報告書を提出させ、作業計画や作業手順の効率性と有効性について検証させた。

【ゲストスピーカー ２人】

【フィールドワーク ２８件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

・農業インターンシップⅠ（前期集中 １単位）１年生、２年生

② 内容・ねらい

夏季休暇中に農繁期となる農作物生産現場にて実践的な研修を行う。複数のコースを設け、学生の希望する分野をより深く体験する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

・特任講師を中心に、農業経営の特徴等を記載した資料を作成・説明し、学生が希望する分野を選択できるよう工夫した。

・インターンシップ前には、実施要領を作成し、マナーや作業安全等の注意事項を明確に伝えるなど、就業体験の効果が高まるよう工夫した。

・修了後は、体験報告書を作成させるとともに、受入農家等を参集した「インターンシップ報告会」を企画し、研修内容の理解を深めた。

【ゲストスピーカー １４人】

【フィールドワーク １３件】

<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 ・食農環境実習Ⅱ (通年 2 単位) 2 年生</p>
<p>② 内容・ねらい 福井県内全域を学びの場として、実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業毎に、一連の作業工程のすべてを体験できるように、班編成ならびにタイムスケジュールを考慮した。また、日誌作成により、体験工程の理解度を深めた。</li> <li>・外部講師を招いての授業では、「農」の現場で働くプロフェッショナルとの意見交換の時間を設け、学生自身の生き方について深く考えるよう工夫した。</li> <li>・学期末に「農」に学び、自らがどう生きたいかについて、発表させ、グループディスカッションを通して、自身の考えを深めた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 16人】 【フィールドワーク 21件】</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 ・食農環境演習Ⅱ (通年 4 単位) 2 年生</p>
<p>②内容・ねらい 食農環境実習Ⅰで体験したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習毎にレポートを提出させるとともに、学期末には面談による指導を行い、理解程度の把握と理解の促進を行った。</li> <li>・学期末にグループディスカッションを行い、実践したことや考えたことについて、話し合い、情報の整理能力と発信能力を高めた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 16人】 【フィールドワーク 21件】</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 ・先端農業技術活用論 (通年 2 単位) 2 年生</p>
<p>② 内容・ねらい 先端的な農業技術を実践している講師をオムニバス形式で招き、現在の活用方法を学び、未来型農業の実現のために、これらの技術をどう活用するか、さらにどんな技術を求めるか議論する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師との事前調整により、理論編と実践編に分けて講義を行い、技術の理解度を深める工夫をした。</li> <li>・学期末に最先端技術の活用方法について考えるグループディスカッションを行うとともに、それをもとにした意見論文を提出させ、議論を深めた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 10人】 【フィールドワーク 0件】</p>

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
・農業インターンシップⅡ（前期集中 1単位）2年生

② 内容・ねらい  
夏季休暇中にキャリア形成に向けた実践的な研修を行う。複数のコースを設け、学生の希望する分野をより深く体験する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫  
・行政や公設の研究機関等の取り組み内容や特任講師の農業経営の特徴等を記載した資料を作成・説明し、学生が希望する分野を選択できるよう工夫した。  
・インターンシップ前には、実施要領を作成し、マナーや作業安全等の注意事項を明確に伝えるなど、就業体験の効果が高まるよう工夫した。  
・修了後は、体験報告書を作成させるとともに、受入農家等を参集した「インターンシップ報告会」を企画し、研修内容の理解を深めた。

【ゲストスピーカー 14人】  
【フィールドワーク 13件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
・地域農政論（通年 2単位）3年生

② 内容・ねらい  
食料や農業、農村環境における諸問題の現状を国レベルと県・地域レベル別に理解した後に国の定めた「食料・農業・農村基本計画」と福井県の定めた「ふくい農業基本計画」を比較するとともに、農業者や消費者のニーズを捉え、地域における風土や歴史、伝統を活かした政策立案、提言の方法を学習する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫  
・農政の主要課題・動向について、国と福井県の動きを分けて講義を行い、農業行政の必要性やあり方について理解度を深める工夫をした。  
・学期末に「みどりの食料システム戦略」実現方法について考えるグループディスカッションを行うとともに、それをもとにした意見論文を提出させ、本県農業の発展に必要な農業政策について議論を深めた。

【ゲストスピーカー 0人】  
【フィールドワーク 0件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
・地域森林利用論（通年 2単位）3年生

② 内容・ねらい  
森林や林業、木材産業における現状や課題及び施策を国レベルと県・地域レベル別に座学と現地研修により理解深めるとともに、森林生態や林業技術、木材利用、特用林産物などに関する基礎知識を幅広く学習する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫  
・農政の主要課題・動向について、国と福井県の動きを分けて講義を行い、農業行政の必要性やあり方について理解度を深める工夫をした。  
・学期末に「森林を活かした新ビジネス」や「県産材活用の意識啓発」、「人材育成」について考えるグループディスカッションを行うとともに、それをもとにした意見論文を提出させ、本県の林業や木材産業の発展に必要な政策について議論を深めた。

【ゲストスピーカー 15人】  
【フィールドワーク 8件】

<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 ・食品加工実習 (前期1単位) 3年生</p>
<p>② 内容・ねらい 農産物加工の基礎、食品衛生管理、6次産業化に関する素養を身に付けるとともに、6次産業化に関連する県内施設・企業の見学、食品加工実習を行う。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工食品について、素材の生産、製造、貯蔵方法、包装、表示などについて、各専門家を外部講師として招き、総合的に理解できるよう、カリキュラムを工夫した。</li> <li>・また、食品加工実践者を訪問し、現場体験や見学を取り入れるとともに、意見交換の時間を設けて食品加工に対する理解度がより深まるよう工夫した。</li> <li>・学期末には、製造から販売まで一貫した事業計画について、グループディスカッションを行うとともに、各学生が事業計画を作成するなど、食品加工について深く考えるよう工夫した。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 9人】 【フィールドワーク 6件】</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 ・地域農政学実験 (通年1単位) 3年生</p>
<p>② 内容・ねらい 地域の食料・農業・農村環境における課題を解決するために実施された政策の内容やその効果について分析し、農業経営の計画づくりについて理解するとともに、政策の立案方法を学習する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習毎にレポートを提出させるとともに、学期末には面談による指導を行い、理解程度の把握と理解の促進を行った。</li> <li>・学期末にグループディスカッションを行い、実践したことや考えたことについて、話し合い、情報の整理能力と発信能力を高めた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 16人】 【フィールドワーク 21件】</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 ・先端農業技術活用論 (通年2単位) 2年生</p>
<p>② 内容・ねらい 先端的な農業技術を実践している講師をオムニバス形式で招き、現在の活用方法を学び、未来型農業の実現のために、これらの技術をどう活用するか、さらにどんな技術を求めるか議論する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師との事前調整により、理論編と実践編に分けて講義を行い、技術の理解度を深める工夫をした。</li> <li>・学期末に最先端技術の活用方法について考えるグループディスカッションを行うとともに、それをもとにした意見論文を提出させ、議論を深めた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 10人】 【フィールドワーク 0件】</p>

<b>(2)その他の教育活動</b>	
内 容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業生産現場における伝統野菜の栽培技術に関すること 坂井地区の伝統野菜（越前白茎ごぼう）について、土壌に応じた施肥方法について指導した。</li>   <li>・ 地域特産物を活用した新商品の開発に関すること 坂井・福井地区の農産物（トマト、ニンジン、タマネギ、オリーブ油など）を用いた 6 次産業化商品（新たな加工品開発）について指導した。</li> </ul>	

#### 4. 研究業績

<b>(1)研究業績の公表</b>	
①著書	【0 本】
②学術論文（査読あり）	【0 本】
③その他論文（査読なし）	【0 本】
④学会発表等	【0 件】
⑤その他の公表実績	【2 本】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地域における農業人材育成」（2022 年 2 月）農業雇用管理研修会</li> <li>・ 肥料原油高騰に関する所見と対策（2022 年 5 月）NHK</li> </ul>	
<b>(2)科研費等の競争的資金獲得実績</b>	
なし	
<b>(3)特許等取得</b>	
<b>(4)学会活動等</b>	

## 5. 地域・社会貢献活動

### ①国・地方公共団体等の委員会・審議会

- ・ふくい農林水産支援センター理事（公益法人）  
担い手研修、農地中間管理、新規就農者育成にかかる方針協議、2019年4月～現在に至る
- ・全国農業担い手サミット in ふくい実行委員会委員（実行委員会）  
担い手サミットの総合企画、2021年6月～現在に至る
- ・県立坂井高校マイスターハイスクール事業運営委員会委員（高校）  
次世代産業人材の育成にむけた新カリキュラムの開発検討、2021年7月～現在に至る
- ・県立羽水高校プロジェクト学習アドバイザー（高校）  
発表に対するアドバイス、2021年12月～現在に至る
- ・畜産試験場にぎわい創出検討委員会委員長（県）  
県民に開かれた畜産試験場のあり方を検討、2022年6月～現在に至る
- ・あわらCONNECT理事（一般社団法人）  
事業方針・事業計画協議、2022年12月～現在に至る
- ・いちほまれ広報宣伝業務委託プロポーザル審査委員長（県）  
いちほまれの情報発信等にかかる委託事業の審査委員長、2022年4月
- ・あわら市食品加工施設等整備支援補助金審査員（市町）  
6次産業化を推進するために必要なハード整備に係る事業の審査、2022年7月

### ④ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等

事業名：クリエイティブミーティング、共催者：福井県農林水産部坂井農林総合事務所  
活動内容：坂井あわら地区の地場農産物を活用した新商品（トマトソース）の開発  
2022年4月～現在に至る

### ⑥公開講座 オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講

- ・公開講座 「地域農業っておもしろい」（2022年8月25日）
- ・高校講座 「これからのふくいの農業」（2022年10月28日）：武生東高校
- ・ 「 」「三国（坂井あわら）地域の農業の今とこれからについて」  
(2022年12月12日)：三国高校
- ・ 「 」「ふくいの農業の未来は！」（2022年12月20日）：羽水高校
- ・社会人講座 「これからの農業担い手のあり方」（2022年4月10日）：福井市中藤島地区

### ⑦その他

- ・中藤島地区壮年連絡協議会会長 2012年4月～現在に至る
- ・福井市壮年会連絡協議会事務局次長 2021年4月～現在に至る
- ・中藤島まちづくり委員会 歴史文化部会長 2022年4月～現在に至る
- ・中藤島公民館運営審議会委員 2012年4月～現在に至る
- ・福井市男女共同参画推進委員 2017年4月～現在に至る

6. 大学運営への参画

(1)補職
生物資源開発研究センター長 2021年4月～現在に至る
(2)委員会・チーム活動
地域志向科目部会 委員 2021年4月～現在に至る 30周年研究プロジェクト チームリーダー 2022年4月～現在に至る
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス (2021年8月7日、11日、21日) 入試説明会 勝山高校 (2022年7月5日)
(4)その他、自発的活動など